いわき民報
發行所
いわき民報社
平市田町一番地（電話三八一番）
人行發兼編輯
人劇印兼
千輝克己
定價一部　月ゲ　一円　送料五十錢

醫藥用、化學用其他
硝子製品一切の製造
新星硝子工業株式會社
平市佃町　電七一四番

平市四十年來の大火

烈風中警防團の活動で喰止む

【昨報】平市大田町六三玩具商小西信夫（四一）方からの火災は書火事だつた爲燒失棟數二十戸位で喰ひ止めたが、折柄の烈風に加へ、人口最も密集した住宅街だけに大火の危險にさらされ、市民は一時戰々恟々たるものあつたが、警防團員の不屈な努力と市民の協力に依つて最少限度で喰ひ止めたことを市民から感謝されて居る、燒止りの個所などは一尺位のドブ下水を距て、軒下まで火がついてゐる狀態で、萬一新田町方面へ延燒すればあの一廓を燒き拂ひ銀座通りへ拔ける危險性があつた、隨所に飛火もあつたが書間だつた爲市民各々の努力に依つて大事に至らしめなかつたことも今後の火災に大きい示唆を與へたものである、然し僅か二時間足らずの火災で二十戸の全半燒家屋を出し、この罹災者が三十八世帶百六十八名の多數に上り、住宅不足の折柄「火の元の不始末」からこのやうな多數の犧牲者を出したことを遺憾とされてゐる平市としては明治三十九年來の大火であつた

燒失した建物のうちには井坂產科婦人醫院があり、醫療設備を全燒したことを惜しまれてゐるが、幸ひ入院患者全部避難し死傷者は一名もなかつた

（十）藤トミ（四）齋藤一（三）馬場原典（五）小松米作（三）小松四郎（五）只野武藏（三）神谷清助（八）

損害二百萬圓

原因は留守宅のセルロイドに引火

火災の原因は火元の玩具商小西信夫方で、同日店を休み、妻女の八ル子（三一）が午前九時頃貸家の仲間町へ出向き、その後魚の配給があつた爲信夫さんが三丁目の三國屋へ魚の配給を受けるため家中に戸締りをして出かけたのが十時過ぎ頃だつたが留守中風が激しくなり建てつけの惡い障子が火鉢にたをれて火がつき、一間半ほど離れた個所に引火し安いセルロイドが三百ほどあつたのに引火し、戸締りが嚴重だつた爲一時に燃え廣がつたものらしい

損害取調べ中なるも時價に見積り二百萬圓に上るものと見られてゐる

威力を示した應援ポンプ

燃料油の普處方要望

この日午前五時頃市內仲間町に火災があり、これは幸ひ大事に至らなかつたが、警防團は一日二回の出動であつた、火災中自動車ポンプのガソリンが缺乏したが石油配給所の機宜な處置に依つて完全に補給成り、消火に支障がなかつた

應援ポンプは四倉、大浦、神谷、內郷、湯本等、各町村から急行大いに威力を發揮したが、湯本町のポンプはガソリンが無くて應援に出られず一時困つたが、これも配給所の便宜な計ひで事無きを得た

消防ポンプのガソリン問題は全縣下警防團の問題と成つて居り平署管內の警防團長會議で縣當局に對し普處方を要望してゐるが、更に早急配給方を陳情することになつた

猪狩事務所の若者連協力

七丁目猪狩建設事務所の若者連も齊藤角治さんの指揮の下に、十數名が秩序整然日頃の訓練振りを發揮して消火に協力してゐた活動振りも人目を惹いてゐた

負傷も顧みず救助に活動

街の青年感謝の的

吹き廻す强風に火足は異常に早く、且つ拔け通等狹隘なため井坂產科婦人科醫院等入院患者の救出にも手古摺る有樣であつたが、これをみた川匂德一さんや深谷井亮君等の引連れた街の青年連は、こんな時にこそ働けと猛火をも辭せず熱風をくゞつて救出やら消火に協力、遂に全患者を無事救出した、殊にこの奮闘中瓦や燒落ちる木材等で中に頭部を割られたり、足部負傷しながらもめげず活躍したのに對しては罹災者は勿論市民の大きな感謝の的となつてゐる

勿來にも火災

横田氏邸全燒す

勿來町關田磐城貨物自動車會社（本社平市銀冶町）社長横田守好氏方から二十日正午頃發火、烈風中のことゝて火足早く居宅及び倉庫等三百四十坪を全燒した、原因及び損害等は目下取調中だが失火らしい

鹿島の火事

二十日朝七時半頃强風中に鹿島村大字御代農荒川忠男（四六）方から發火居宅一棟全燒、原因は煙突の不始末

罹災世帶が三八

市役所が救助に乘出す

平市役所では社會課が主任となつて罹災者救助に乘り出し、同夜は一丁目の婦人に出動を乞ひ炊出しを爲し、行き先のない六世帶を元藤田女學校に收容、二十一日には二丁目の婦人が出動して惣食の炊出しを行なはしめた一方外地引揚者へ配給豫定の鍋、コンロ、セトモノなど燒出されて困つてゐる家庭へ贈る計劃を進めてゐる、罹災した世帶は次の如し（括弧內は家族數）

罹災世帶

松本チカ子（五）鈴木藤太郎（六）齋藤誠二（八）三浦富壽男（九）三浦ミツヨ（三）友部花野（五）渡邊サト（一）渡邊ユキ（四）藤居勝武（八）大野鰲太郎（七）古川清吉（四）名倉惠造（四）橋本行綱（三）佐川スイ（四）瀨谷百子（三）篠原義郎（七）吉田チヨ（二）小西信夫（二）西村トヨ（二）齋藤鈔實（八）郵便合宿所（三）林敏（六）大竹庫（六）會川キミ（二）松原マサ子（一）小林ミヨ（三）井坂久吉（八）鈴木光彌（二）大部清（二）高野トメヨ（一）鷲廣次

風速十四米に達す

きのふの烈風猛威の原因は？

一昨十九日から吹きだした强風は昨廿日に入つてもやむことなく一日中吹きまくり、このため農作物は慘々荒された、小名濱測候所のはなしでは

千葉縣沖合を北北東に進む低氣壓が小名濱沖合を通過し更に別動の低氣壓が日本海にあつたため當地方が低氣壓の挾擊下に晒されこの后から遂く支那大陸より追掛けて來た高氣壓に慘々吹まくられたのが昨日の風、最高秒速十四米まで記錄した、今廿一日の天氣はこの兩低氣壓が快速に逃げ廻つてカムチャツカ方面へ去つたので風もなく、唯內地の處々に殘存する地形性低氣壓の影響を被り曇り勝ちの空模樣、明廿二日は支那大陸からはる〳〵やつて來た低氣壓に依つて五月雨を齎すがのちこれも東へ去るので午后から次第に回復の見込、この分だと被害受けた農作物も適當な五月雨で息をふき返すだらうとのことである

農作物の被害甚し

果實は半作程度

尙郡內農作物被害は地方事務所の調査に依れば次の通り

◇果樹――被害は一番大きく桃、柿、梅が特にはなはだしく梨も痛手を被つた、このため今年は半作の見込である

◇馬鈴薯―大きく伸びたものが殆んど倒れこの分では二割五分減の見込、今後小雨があれば回復も早いだらう

◇麥―小麥が痛んで三割程度の被害あつたが大麥は大体健在の見込である

◇桑―川前方面の未だ小さい桑が被害大きく、平坦部の大部伸びた部分はすくない見込

今後の天候回復で發育が順調になれば新芽が伸びて來て養蠶には大した影響ない豫想である

皆元氣です御安心を

今野さんの齎した重慶便り

上海に日の丸旅館を經營し最近華中から引揚げて來た相馬郡太田村出身今野太郎さん（五六）は歸郷の途中ひつこり平驛へ下車す、のうち本縣關係次の六氏は何れも元氣でゐると重慶便りを齎らした、この中には磐崎村出身桃龍雄君も混つてゐる

高橋喜六（伊達郡福田村）、武藤悅通（伊達郡飯野町）、成田幸吉（福島市）、楠龍雄（石城郡磐崎村）、寺島秀頓（相馬郡新地村）、服部仁保（北會津郡岩平村）

僞者に御注意

摘發係員證交付

平市では最近隱退藏物資摘發の係官の如くよそふて市內を荒廻り、係官が横行してゐるので二十一日各區內會を通じ係員は必ず「隱匿物資等緊急措置令第七條の規定に依る證票」を携帶してゐるからその提示を要求してたしかめるやうにと注意を發した

壕舍の主死亡

湯本町八仙通りの防空壕に壕舍生活を續けてゐた新潟縣北蒲原郡神矢村生れ天野砌治さん（五九）は榮養失調で十九日死亡してゐるのを附近の子供が發見した、一先づ假埋葬にして郷里へ照會中だが、懷中には三千圓を所持してゐた

平の公葬

平市上平窪故林保一兵長の公葬は二十三日午后二時自宅で執行される

市議戰へ勞組代表

勞組平地區聯早くも擁立を決議

濱通り地區勞組平地區委員會では去る七日の會同の結果に基いて協議中だつたが、今度來るべき平市會議員選擧には、勞組側より最低二名乃至三名の候補を推薦して沈滯せる市會の革正刷新を期することを申合せた、平市會選擧は九月末改選期となつてゐるが、七、八月頃に繰上げられるものと見られて居り、早くも噂とりどりで目下の情勢では、定員三十名に對し最少限七八十名からの出馬をみるべく觀測されてゐるが、今回の勞組側のこの申合は各方面大きな影響を齎らすものとして今後の態度が注視せられてゐる

內郷町では家屋が倒壞

昨二十一日の强風で內郷町字白水農棚塚命作さんの居宅一棟が全壞した、損害千五百圓

平局の家族慰安藝能會

平郵便局勞働組合

文化部では二十六日平第三校講堂で午前十時から家族慰安の藝能祭を催す事になつた、勤務者の便宜上第一部、第二部に分け終つて茶話會を開き批評をなす事になつたが目下舞踊の師匠等を招き猛練習中である

農組懇談會

先に結成を見た日本農民組合石城支部では二十四日午后一時から公會堂日本間に懇談會を開く

いわき寸言

▼吾等の祀憂が不幸にして實現し一朝にして二十戸を燒き、三十八世帶の罹災者を出した、あの烈風中あれだけの犧牲で喰ひ止め死傷者のなかつたことを不幸中の幸ひとも謂ふべきか

▼今度の火災では二十戸の類燒家屋を出した。例の問責決議案の筆法を以てすれば警防團長の腹切り問題でもあらうか

▼團員諸子が一家を顧みず如何に必至の努力を行つたかは多數市民の是認する處であらうし今度こそ文句があるまいとは一警防團員の述懷であつた

▼火災怖るべし、起きてからは勿論警防團にたよらざるを得んが、各々の注意に依つて先づ火災を起さぬやう最善を盡し國家的損害を防ぐべきことを望む

近火御見舞御禮

近火に際し早速御駈付けの上消火に御協力を賜り御厚情で危く類燒を免れました、取敢ず紙上にて厚く御禮申上ます

昭和二十一年五月二十日

平市田町（電六六九）

明雲堂眼科醫院

新妻幸之助

この同胞の窮狀を何とみる？

普通の一般家庭でさへ相當苦しい最近、焼出されたり、外地から引揚げて來た人達はいまどんな生活を送つてゐるだらう？　考へただけでぞつとする生活に相違ない、この人達にやさしい相談相手となつて種々面倒を見てゐる平市役所社會課内の平市厚生援護會援護相談所窓口に覗いて彼等の、實情を聴いて見たいま同相談所に一番多く尋ねる人達は復員者、引揚者、戰災者、貧困者の順である、その何れもが苦しい食糧難、失業或は新圓生活と闘つてゐる訴だが特に綾古關係の尠ない外地引揚者等は相當深刻なものがある、以下その人達の相談狀況——

まだ貰へぬ給與金

生活扶助金を支給し援護
復員者總數五百五十七名

最近南方特に佛印からの復員が順調と見えて多くなつて來た、二十日には十八名が「唯今歸つて來ました！」と來所してゐる、終戰後十八日現在までに平市で復員したものは

【陸軍】△將校二十九名▽下士官百三十一名▽兵二百六十四名▽軍屬十二名

【海軍】▽將校六名▽下士官三十一名▽兵八十二名▽軍屬二名

計五百五十七名でうち近頃の復員者はボロ服に榮養失調症も割合多く出てゐるので生活には相當苦しいものがある、市ではこれに對し軍事扶助に代る生活扶助の無償配給を行つたが近くは復守中戰災に遭つてゐる家庭では親の毒の限りである、然し平市關係では留守中に戰災で家族が行方不明になつてゐる者が一人もなかつたし今後も戰災者として優遇して行く方針である、ただ在隊中の給與金をまだ貰つてゐないものが相當あるのでその相談が非常に多い

の非常な努力で縣内他の三市は勿論、東京より遙か順調ですよと戰災者は喜んでゐるが實際同じ地方の郡内各町村側と比較すればその迅速なこと配給量の多いことなど獲得に奔走する係員の努力の跡が歴然としてゐる、また生活に苦しい人達には先に靴の無償配給を行つたが近くはまた綿のチョッキも追加して配給がある

貧しき行路者は殖える一方

貧困な行路者は毎年あるがこの時勢だけに今年は多い、去年は七名だつたが今年は未だ二十日現在で二十名を算へてゐる、この人達にはそのひとは新芽のやうに脆くあいれんの悲しい嬌羞をふくんでゐるあゝ！可愛さうなひとほろ〳〵と蟬る山風のほとりにお前は露草のやうにつゝましくながい〳〵孤獨の疲に耐へて二そんなにもひどくやつれてしまつたわたしの疲れた心は

貧困者

右について同相談所佐川主任は語る

困つてゐる人はどん〳〵遠慮せず來所願ひたい、市内には貧困者も相當あると思ふが僅か百四十四世帯しか名簿に登錄してない、今後は方面委員か市役所、社會課を通じて困つてゐる方は名簿へ載せて欲しい、そうでないと配給や援護金等漏れます　今後も配給等は迅速に行つて行きたいと思ひますから生計狀況等各區内の方面委員と絶えず連絡とつて戴きたい

非常食糧給與
預金封鎖が最大の痛手

引揚者でも同じ引揚者でも二世に等しい縁古の尠ない人達は深刻である、特に封鎖預金の引出が當分中止になつてゐるので金はなし物はなしで弱り拔いてゐるやうだ、毎日同相談所を訪れる四、五名の引揚者たちは封鎖預金の引出し證明を發行して呉れと泣きついてゐる、戰災者にも同じことが云へるが一部には相當困り切つてゐる人もありこの五、六月食糧危機をどうするか？迷つてゐる、これを援護するため市では危機突破の非常食糧をこの人達へ分け與へるべく値かではあるが、乾パンと罐詰を近く配給する、乾パンは既に食糧營團に在庫中で一世帯三百二十グラムの豫定、十日目毎に區切つて配給する計畫罐詰は鰯で近く入荷する

既に預金も一文無し

配給援護方面は縣下で一番良い

戰災者

戰災者が一番憐んでゐるのは封鎖で金が引出せないことだ、中には既に拂五十余戸燒き、平市ではこの日二回目の火災で二十余戸の燒失戸數を出した外、勿來町にも火災があつた。遠い田島町は別としても、平市ではあの強風中よくあの程度で鎮火したものである。若しあの狀態で夜だつたら恐らく平市の半數位焦土に化し警防團員が問責案に拘泥せず身的努力を拂つたことは何人も認める處であらう。

▼地震雷火事親父といふ比がある。空襲から解放された戰后では、最も怖るべきは火災であらう。僅か二時間足らずで二十數戸の燒失戸數を出し、住居の何れを問はず鼎の輕重を問はず惱む今日三十八世帯百六十八名の罹災者が露頭に迷ふことになるのである。物資不足の折柄、建築資材はもとより、家財も良く努力した。消火に對する市民の協力にも感謝の外ない。

▼二十日はとんだ惡日であつた。田島町は再度の火災で四百五十余戸燒き、平市ではこの日二回目の火災で二十余戸の燒失戸數を出した外、勿來町にも火災があつた。遠い田島町は別としても、平市ではあの強風中よくあの程度で鎮火したものである。若しあの狀態で夜だつたら

火災を怖れよ

▼警防團長の問責決議案などが上提されてゐる際であり、万一これが未解決のうちに大火災を招くことがあつては、實際不可抗力であつても提案者と警防團の何れを問はず鼎の輕重を問はれる處であつた。あの突風中にあれだけで鎮火したことは市民にとつて幸ひであつた。警防團も良く努力した。消火に對する市民の協力にも感謝の外ない。

▼この意味に於て吾等は各個々の責任に依つて絶對火災を起さぬやう最善の注意を換起するものである。火災が起きてからポンプがどうのこうのいふても既におそい、終戰后防火用の水は一般に邪魔ばひにされ筆者を始め取片けたものが多いやうだが、平市の火災で隣組の防火活動が相當役に立つた。萬一に備へ防火用水の設備は確かに必要であることを体驗した。更めて全市民へ防火施設を提唱する（武藏山人）

開放

投書を歓迎す
要望、批判結構
紙上の匿名可

遠慮はせずに來所せよ

方面委員も協力を

いわき俳壇

富士勞組句會

互選三点句

夏めくや祭職を讀み上げり　かの子
りもはるか下なり峠みち　みのる
りに熟睡さめたる朝かな　守
りの遠くなりたる街に入る　眞砂常
りや清水を吸んでまた歩く　かの子
りや張り合ふ野日白籠日白　はるみ
夏めくや妻湯上りの艶化粧　守
野も山も夏の匂や野良たのし　一夫

オアシス句會

大浦村狐塚在佐美忠康氏の率ゆるオアシス會では精神の糧にて句會を結成、隨時例會を開き活潑な活動を開始してゐる、第一回句會の詠草は左の通り

春まつり　董郷

鄙の家に春もたらせる祭かな
子供らの見様見まねの荒神輿

神輿行つて后にむざんや豆の花
春祭とくに愛でたき稚兒の顔　朴石
風薫る祭の朝の藏かな
遥る鎮守の森や春まつり
沈みゆく太鼓の音や春近し
神輿越す菜種に隱れ麥に入り
着飾つた村の娘や春まつり
劍下げて巡査も來てる春まつり　秋水
五月晴れ神輿の笛に集ふ子等
演藝をまねする吾が子春まつり
春まつり平和な風が流れ來る　凌雲
終戰の祭いかでや雲雀啼く
臨月明日が氣になる春まつり
春祭來年もまたかこのつらさ　森の風
春まつり大若小若の聲をきく
沼邊にてねむりにさめし荒神輿
青みたる麥も神輿になんのその

詩

野の果ての想び

千吉

辮土のほそい畦路がつゞき
香い香い野つ原の果て
わたしを呼んでゐるひとがゐる
夕ぐれが沈んでくると
青い草むらのなかゝら
すんなりとたちあがり
はろ〳〵とわたしをよんでゐる
そのひとは新芽のやうに脆く
あいれんの悲しい
嬌羞をふくんでゐる
あゝ！可愛さうなひと
ほろ〳〵と蟬る山風のほとりに
お前は露草のやうにつゝましく
ながい〳〵孤獨の疲に耐へて
そんなにもひどくやつれてしまつた
わたしの疲れた心は

短歌

亡き母を憶ふ

——生活抄——

哲夫

たらちねの母戀ふ心幼子の
心に似たり三十路の男の子
物欲しと幼き兄弟の爭かひを
柔しくなでし母の姿いづこ
母戀ふる鳥にも似たり朝な夕な
宰行く雲の果を見つむる
母は逝きぬ一人寂しく黄泉國へ
見知らぬ旅を長き旅路を
疲れ果てし母の旅路の後姿
杖ともなりて共に行きたや

類燒御見舞御禮
平市田町
のんき　古川清吉

近火御見舞御禮
平市田町（電四七五）
安齋病院
安齋　徹

近火御見舞御禮
平市田町（電三三二）
蓬萊亭
阿部千鶴子

近火御見舞御禮
平市二丁目（電三〇、六四三）
常陽銀行平支店

近火御見舞御禮
平市二丁目（電八一〇）
安田銀行平支店

近火御見舞御禮
平市田町
神谷工業有限會社
神谷兼次郎

近火御見舞御禮
平市田町（電二〇六）
平糧果有限會社
松月堂　金子重次

近火御見舞御禮
平市田町（電四四）
阿康藥局
阿部康雄

近火御見舞御禮
平市田町（電七一、四五五）
硝子機、電球、木工、煉瓦製造
佐藤幸太郎
足助重雄